

## 輪中に関する地域資料のデジタルアーカイブ化

林 知代 (岐阜女子大学)

岐阜県安八郡輪之内町の輪中に関する地域資料のデジタルアーカイブ化を目指し、輪中関連史跡等の写真撮影とドローンを用いた空撮、と私設博物館「片野記念館」の所有する古文書・古地図等の資料のデジタル化を行った。

空撮で得られた映像によって輪中に関する施設や史跡の位置関係や全体像を鮮明に確認することができた。また、「片野記念館」資料のデジタル化では、長年に渡って集められた貴重な資料が活用できる状態になった。今後もデジタルアーカイブ化を進めることで、輪中についての地域研究資源の活用の活性化に多いに役立つのではないかと考える。

### (1) 輪中関連史跡のドローン空撮

輪中堤(自然堤防)、列状集落、排水機場、水屋などの輪中関連資料を撮影対象に、ドローンを用いた空中からの動画撮影を行った。輪中堤(自然堤防)は地上からの撮影では、部分的な映像撮影となってしまうが、ドローンで空撮することで、その全貌が撮影でき、地図等で確認してきた全体像を映像として捕らえることができた。輪中堤が川岸ではなく平野の真ん中に堤防が存在し、堤防が集落を包んでいる様子を映像として見ることもできた。



輪中堤(自然堤防)空撮

その他にも、排水機場と川との位置関係、治水事業による移転が原因で堤防に沿って住宅が建つ列状集落の様子など、輪中地域の特徴が伝えられる映像を撮影することができた。



排水機場と川との位置関係

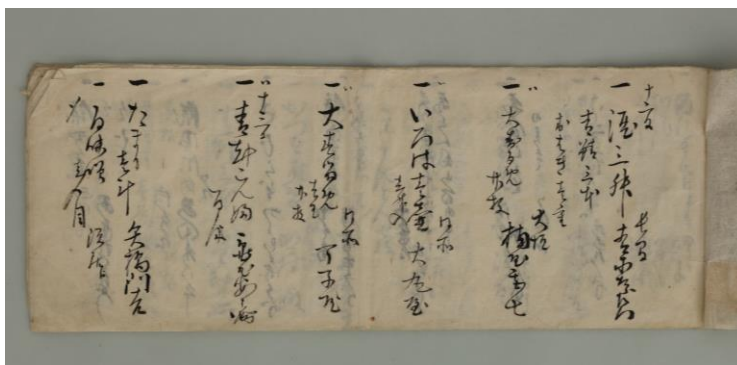


列状集落の様子

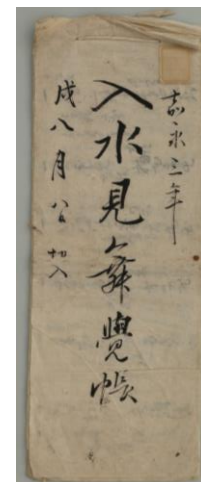
## (2) 片野記念館所有資料のデジタル化

片野記念館は、昭和46年に片野知二氏によって開館された私設の民俗博物館である。片野家は、明治の木曾三川改修工事で、治水共同社の初代取締役を務めた片野万右衛門氏を祖先とされ、記念館を開館された知二氏の父にあたる片野温氏は、岐阜県において、大正時代より活躍された高名な郷土史家である。長年の展示によって、原本資料の経年劣化への心配があることから、文書20点、絵図18点、その他展示パネル類12点のデジタル化を行った。

デジタル化した文書の一例に、片野家に伝わる江戸時代末期から明治初期に書かれた入水見舞覚帳がある。これは、洪水に見舞われたときにいただいたお見舞いの品、今でいう救援物資の一覧表なのだが、誰から何をいくつかいただいたかが、詳細に記録されており、当時の人々の助け合いの精神が伝わるのと同時に、いただいた物を記録し、相手の有事の際にはきちんとお返しするための記録である。当時の人付き合いの機微を感じられる。



嘉永三年 入水見舞覚帳 戊八月八日切入



その他、片野温氏が宝暦治水について研究され影写された宝暦治水関連の絵図のデジタル化も行った。このことにより、長年に渡って集められた貴重な資料がデジタルデータとして活用できる状態にすることが出来た。